



ナマズの知恵袋

平成27年(2015年)4月1日
編集・発行 滋賀県立図書館

ハツキヨイ!!～大相撲～

2015年春場所は、14年ぶりに全15日間に「満員御礼」となりました。1月の初場所も全日満員となっており、2場所連続の満員御礼は、実に18年ぶり。人気も盛り返してきたところで、大相撲のあれやこれや、調べて楽しんでみてはいかがでしょうか。

相撲の始まりは?と尋ねられたら、「野見宿禰(のみのすくね)と当麻蹶速(たいまのけはや)の決闘!」とお答えの方も多はず。しかしながら『相撲の誕生』(長谷川明著 新潮社 3-7881-ハ)によれば、『古事記』や『日本書紀』には、相撲の起源をめぐる3つの神話や伝説が語られているそうです。ちなみに残りの2つは「建御名方神(たけみなかたのかみ)と建御雷神(たけみかづちのかみ)の力比べ」と「雄略天皇が命じた女相撲」。そのルーツについても、南方起源説あり、中国起源説あり、と諸説様々ですが、古代の神事として始まった相撲が職業相撲として確立したのは、江戸時代に入ってからのことでした。

★相撲の誕生については…

『野見宿禰と大和出雲』(池田雅雄著 彩流社 2006年 G-7881-イ)

『相撲(すまひの)節会 大相撲の源流』(飯田道夫著 人文書院 2004年 G-7881-イ)

『相撲の人類学』(寒川恒夫編著 大修館書店 1995年 3-7881-リ)

相撲の誕生

力士を取り巻く人々

相撲の中心は何といっても力士。ですが、彼らだけでは成り立たないのが相撲の世界。色々な人々が角界を支えています。

『大銀杏を結いながら 特等床山・床寿の流儀』

(床寿著 PHP 研究所 2008年 G-7881-ト)

『力士たちの心・技・体 相撲診療所医師が診た』

(林盈六著 法研 1996年 3-7881-ハ)

『大相撲と歩んだ行司人生 51年』

(木村庄之助著 英宝社 2006年 3-7881-キ)

意外と知らない相撲の決まり手。俗に「四十八手」などと呼ばれますが、現在、日本相撲協会が認定している技は八十二手です。

『相撲四十八手』(緒崎英朋画 ベースボール・マガジン社 1986年 2-7881-ヒ)

『日本の相撲』(谷川徹三著 ベースボール・マガジン社 1995年 3-7881-カ)

『見る・学ぶ・教えるイラスト相撲』(日本体育大学武道学相撲研究室著 五月書房 1985年 3-7881-ト)

決まり手あれこれ

華麗に花開いた江戸の相撲文化の熱気を味わうには、『史料集成江戸時代相撲名鑑』(飯田昭一編 日外アソシエーツ 2001年 R-7881-イ)がお勧めです。寛永元年(1624)～慶応4年(1868)の江戸・京都・大阪で活躍した力士や行司2万人余が収録されており、名横綱はもちろん、無名の幕下力士の記録までもが網羅されています。明治以降の相撲史については、『古写真、プロマイド、カードで見る大相撲 明治、大正、戦中まで』(景山忠弘編著 東京文献センター 2001年 3-7881-カ)や『江戸・明治・大正大相撲グラフィティ』(景山忠弘編著 カタログハウス 1994年 3-7881-カ)、『目でみる昭和の大相撲』(景山忠弘編 国書刊行会 1986年 2B-7881-カ)が、豊富な写真や図録でお楽しみいただけます。

★相撲の歴史については… 『相撲の歴史』(新田一郎著 山川出版社 1994年 2-7881-ニ)

『物語日本相撲史』(川端要寿著 筑摩書房 1993年 3-7881-カ)

『大相撲八十年史』(日本相撲協会編刊 2005年 GB-7881-ニ)

相撲の歴史～江戸以降

湖国と相撲

『信長公記 全』（太田牛一著 人物往来社 1965年 S-2800-65）には、「常楽寺にて相撲の事」として信長は元亀元年（1570）3月3日、江州国中の相撲取を集めて相撲をとらせ、うち二人の力士を御家人に召し抱え、相撲の奉行にしたとあります。天正6年（1578）にも安土山で相撲を観覧。このときは、1500人もの力士を呼び寄せ、辰の刻（午前8時頃）から酉の刻（午後6時頃）まで行われました。このように信長は、たびたび相撲を観覧し、優れた者には褒美をあたえたり、召し抱えたりしました。信長の影響もあるのでしょうか、江戸時代に書かれた『東海道名所記2』（浅井了意著 平凡社 1979年 2-2910-2）では、近江の国はむかしより相撲が盛んで、大名に召し抱えられるものも多いと記されています。当館所蔵の「膳所藩郡方日記」（当館HPにて一部公開）にも、相撲興行に関する記録が多数みられます。

一方、神事としての相撲も数多く伝承されています。重要無形民俗文化財である三上のずいき祭り（野洲市）では、みこしの正面に「角力猿」の人形が飾られ、奉納相撲も行われます。この御上神社には鎌倉時代に製作された木造の相撲人形が伝わっており、日本最古の相撲人形といわれています。

★滋賀県と相撲については…

『相撲』（野洲町立歴史民俗資料館編刊 1994年 S-7826-94）

『京都・滋賀の相撲』（竹森章著刊 1996年 S-7800-96）

『ハッケヨイ!』（草津宿街道交流館編刊 2009年 SB-7800-09）



寛政元年（1789）に、近江出身の力士小野川喜三郎が横綱免許を受けました。『史料集成江戸時代相撲名鑑』によると、生国は大津坂井川で、身長5尺8寸、体重31貫とあります。小野川は当時無敵を誇っていた谷風の63連勝に土をつけ、以後二人の対戦は常に注目をあびました。明治期には、草津市出身の大鳴門灘右衛門、彦根市出身の近江富士初治郎や京都相撲では大津市出身の磯風音治郎らが活躍しました。昭和の力士でいえば、野洲市出身の蔵間が有名です。昭和43年（1978）に時津風部屋に入門、最高位は関脇。引退後はタレントとして活躍しましたが、平成7年（1995）に亡くなっています。蔵間については『永遠の千秋楽』（蔵間弥生著 ザ・マサダ 1995年 S-7826-95）があります。

★力士については…

『大相撲力士名鑑』（共同通信社 1992年～ G-7881-㉑）

『古今大相撲力士事典』（景山忠弘編著 国書刊行会 1989年 3-7881-㉒）

『相撲ロマン大事典』（弥谷まゆ美著 勉誠出版 2000年 G-7881-㉓）

『大相撲人物大事典』（「相撲」編集部編 ベースボール・マガジン社 2001年 R-7881-㉔）

湖国の力士



記録

現在、横綱白鵬が幕内優勝回数の記録を更新中ですが、雑誌『相撲』（ベースボール・マガジン社 月刊）の毎年1月号には、前年の各種記録が特集として掲載されます。

『相撲大事典 第4版』（金指基原著 現代書館 2015年 R-7881-㉕）には、明治42年夏場所からの優勝力士一覧や歴代力士十傑記録表がまとめられています。

ちゃんこって？

力士が作る料理、また、力士が食べる食事の総称。スープや具材に関係なく、力士が作る鍋料理はすべて「ちゃんこ鍋」といいます。

★作ってみよう！

『秘伝!相撲部屋ちゃんこレシピ 全14部屋』

（どす恋花子著 文藝春秋 2012年 G-5960-㉑）

『琴剣の「ちゃんこ道場」』（琴剣淳弥著 ベースボール・マガジン社 2003年 3-5960-㉒）